



人口が減少し、伝統行事や水田の維持もままならなくなってきた、佐渡市久知河内の人びとが危機意識を持ち、地域をあげて環境保全活動や、それを生かした地域づくりに取り組み始めました。どのような取り組みがなされたのか。自然や地域を守るために、私たちはどうすべきなのかを久知河内の事例を手がかりに考えてみましょう。

久知河内の概要

旧両津市大字久知河内は、両津港から車で15分ほどの場所にあり、両津湾に注ぐ二級河川、久知川岸沿いに約400mにわたって列状に並ぶ集落です。

久知河内は、戸数30戸弱、人口100人未満です。近年は人口の減少が激しく、とくに若年層の減少が大きくなっています。

人口減少、高齢化が進行している地域では、農業生産活動や集落行事を今後も維持・継続することが可能なのか、集落そのものの持続可能性はあり得るのかという切実な課題に直面しています。

持続可能な自然環境づくりへの取り組みは、集落機能を持続させるという取り組みを抜きにしては考えられません。ここに、自然環境保全活動を媒介にした地域づくり・生産活動への取り組みがなされる背景があります。

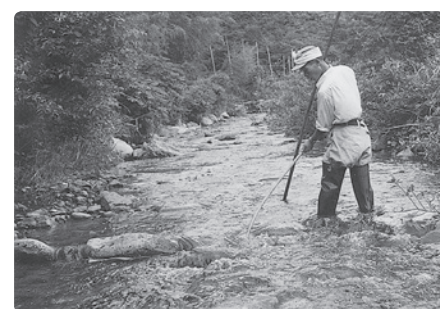
近年の久知河内集落の戸数・人口

	戸数 (戸)	人 口 (人)		
		全人口	高校生以下の 人口	65歳以上の 人口
2003年	27	97	16	44
2007年	27	85	8	40

久知川とともに

高度経済成長期の1960（昭和35）年前後ころまで、日本全国の多くの地域で、流域の川や湖沼は人びとの生活と密接に結びつき、なくてはならない水環境として存在していました。久知河内集落を貫いて流れる久知川も、上水道が完備するまで、飲料水・野菜の洗い・洗濯・風呂水・牛馬の洗いなどの用途に用いられる貴重なものでした。毎朝、川の水を汲んで大きなかめに入れておき、ごみを沈殿させた後、ひしゃくでくんで飲料水に使っていました。

また、サクラマス・アユ・ウグイ・イワナ・ウナギなどの川魚が豊富でした。8月16日の送り盆では、麦わらで作った舟にお供え物をのせ川に流しました。このため子どもたちには川の掃除が一つの役割として与えられていました。



「集落の上流部でタモ（サレ網）を使っての鮎（あなご）捕り（1960年）」

（ともに菊池武治氏提供）

このような、人と川との密接な関係は、生活様式の近代化のなかで薄れていましたが、今地域の将来のために、この久知川を核にした保全活動への取り組みが始まっています。

久知河内の取り組み —自然環境再生・保全活動—

棚田ビオトープづくり

久知河内には、久知川沿いを中心に山間に27～30haの水田があります。しかし労力のかかる山間地棚田は多くが耕作放棄地になっていました。

ここに獨協大学の人たちと協力をして、棚田を作りました。

棚田はビオトープはトキ野生復帰後の餌場になります。



サケの稚魚放流活動

1993(平成5)年から久知川でサケの稚魚の放流活動に取り組み始めました。2007年(平成19)も10万匹を放流しました。活動から10年あまりで、成長したサケ数十匹が回帰し、久知川の途中まで遡上する姿が見られるようになりました。

久知川に設けられている堰のために、集落まで遡上できなかったのが、川に魚道を作りました。

水生生物調査活動

久知河内に近い河崎小学校ではホタルの学習に取り組んでいます。

また、住民・保護者が参加して久知川の水生生物の調査を行っています。

くじかわち 久知河内の取り組み —交流活動—

「ホタル祭り」 ホタルの里復活を目指して

1991（平成3）年頃、久知川流域に大量のホタルが発生しました。

ホタルを見に多くの人が訪れるようになりましたが、自動車での乗り入れで、強い光を嫌うホタルへの悪影響が懸念されるようになりました。そこで、ホタルを守るための組織「久知河内ホタルの会」が作られました。

地域おこしの事業として「ホタル祭り」を開催し、訪問者のためのホタルマップや鑑賞のルール説明書を配布しています。

※2010年・2011年の「ホタル祭り」は、ホタルの減少を理由に、中止されました。



「ホタル祭り」来訪者数

年度	来訪者数
1998（平成10）	2,025
1999（平成11）	1,038
2000（平成12）	1,763
2001（平成13）	1,609
2002（平成14）	1,506
2003（平成15）	1,639
2004（平成16）	2,537
2005（平成17）	2,439
2006（平成18）	2,185
2007（平成19）	983



「米ニティ」 — 「ホタル米」販売を通して—

「米ニティ」活動は、米の販売を通して首都圏の消費者・人びとと交流することを目的とした事業です。

久知河内で生産される米を、あらかじめ注文をしている顧客に直接販売します。

また、生産の現場やホタルの生育環境を見てもらう活動を通して、外部の人びととさまざまな交流を図り、地域おこしにつなげようとしています。



「ホタル米」に添えられる生産者からのメッセージ
久知河内の美しい自然を守ることが、「ホタル米」の価値を高め地域経済を活性化させる